

ジアミド系殺虫剤5種のチャノコカクモンハマキに対する残効期間

○内山 徹¹・海野康平²・吉田達也¹・小澤朗人³

¹静岡県農林技術研究所茶業研究センター・²静岡県立農林大学校・³現在 静岡県立農林大学校

ジアミド系殺虫剤（以下、ジアミド剤）は、筋小胞体のリアノジン受容体に作用して異常な筋収縮を引き起こし、主にチョウ目害虫に殺虫活性を示す。土着天敵の保護が可能な選択性殺虫剤であるとともに残効期間も比較的長いことから、茶栽培においては重要害虫であるハマキガ類に対する基幹防除薬剤として全国的に使用されている。ジアミド剤のうち2010年以前に発売されたフルベンジアミド剤及びクロラントラニリプロール剤は、チャノコカクモンハマキに対する残効期間が長いと報告されている（内山、2012）ものの、2015年以後に登録された後発の3剤については、野外における明確な残効期間は明らかになっていない。そこで、ジアミド剤5種のチャノコカクモンハマキ幼虫に対する残効期間を明らかにすることを目的として試験を行った。また、ジアミド剤5種にパラフィン系展着剤を加用した場合の残効性についても併せて検討した。

[試験方法]

- 1) 試験場所：当センター野外茶園及び室内（静岡県菊川市倉沢）
- 2) 供試薬剤：ジアミド剤5種の常用濃度（フルベンジアミド剤、クロラントラニリプロール剤、シアントラニリプロール剤、シクラニリプロール剤、テトラニリプロール剤）、パラフィン系展着剤（1000倍希釈）
- 3) 試験方法：ジアミド剤5種を所定の間隔で野外茶園に散布した処理葉を用いた薬剤感受性検定（茶葉浸漬法：内山・小澤、2017）によりチャノコカクモンハマキ幼虫に対する残効期間を調査した。検定には浜松市春野町2017系統（薬剤感受性系統）の2～3齢幼虫を供試した。

[結果]

- 1) フルベンジアミド剤、クロラントラニリプロール剤、及びテトラニリプロール剤の残効期間は14日以上と考えられた。
- 2) シアントラニリプロール剤及びシクラニリプロール剤は、前述の3剤よりも残効期間は短いと考えられた。
- 3) ジアミド剤5種にそれぞれパラフィン系展着剤を加用したところ、フルベンジアミド剤では残効性が向上した。

Residual activity of five diamide insecticides on the smaller tea tortrix, *Adoxophyes honmai* (Lepidoptera: Tortricidae).

Toru UCHIYAMA¹, Kohei UNNO², Tatsuya Yoshida¹, Akihito OZAWA³

¹Tea Research Center, Shizuoka Research Institute of Agriculture and Forestry

²Shizuoka Prefectural Agriculture and Forestry College

³Present address: Shizuoka Prefectural Agriculture and Forestry College